

- 主題名** メディアリテラシー
- 教材名** それって本当？
- 人権学習の視点** 個別的な視点「社会情勢の変化等により顕在化している人権にかかわる課題」  
(インターネット社会における人権の尊重)

**●主題・教材について**

スマートフォン等の普及により、児童達は日常的にインターネットを通じて、様々な情報に容易にアクセスできるようになった。しかし、膨大な情報の中には事実と異なる情報も混在し、他人を誹謗中傷する表現や、同和問題など様々な人権問題にかかわって差別を助長するような表現等、個人や集団にとって有害な情報が掲載されるなどの人権侵害事象が増加している。

こうした中で、メディアからの情報をそのまま受け入れるのではなく、様々な角度から情報を多面的に考え、正しく判断する力が必要である。本教材では、メディアリテラシーの一つの能力とされる、情報を批判的に読み解く力を身に付けさせ、それを踏まえ、インターネット上にある差別を助長する情報等に対して、どう対処するべきなのかを考えさせたい。

**●ねらい**

インターネット上には、事実と異なる情報や個人の主観に基づく情報が混在していることを理解し、「事実」の部分と「主観」の部分とを区別し、適切に情報を読み解くことで、偏見や差別を助長するような情報や誤った情報を見抜き、正しく判断できる態度を養う。

- 関連する教材** 人権学習資料集<小学校編Ⅲ> 半分の写真から (5年生用)  
// 「掲示板」って知ってる？ (5・6年生用)

**●本時の展開**

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
<b>調べたいことがあるとき、どうやって調べるかな？</b>					
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報を得る方法に、どのようなものがあるかを発表させる。</li> <li>○本時の学習課題を知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉</li> <li>一斉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べたいことがある時に、どんな方法で調べるかを考え発表する。</li> <li>○本時の学習課題を知る。</li> </ul>	○考えやすいように、調べる内容の具体例を挙げる。	
<b>インターネットサイトの情報から、ひまわり市の紹介文を作ろう</b>					
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インターネット上の2つのサイトの情報から、紹介文を完成させ、グループ毎に発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別</li> <li>グループ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシート①から情報を読み取り、表を完成させる。</li> <li>○ワークシート②の紹介文をグループで完成させ、グループ毎に発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あらかじめ、異なるワークシートを持つ児童でグループができるように配布する。</li> <li>○複数の資料を比べることが適切な情報を得ることができることに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート① (①-1、①-2)</li> <li>ワークシート②</li> </ul>

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	○異なる情報からどのように選択したのか発表させ、情報検索する上での留意点を考えさせる。		○サイト①②からどのように情報を選択したのかを発表し、情報を検索する上での留意点を考える。	○「人口」「市名の由来」を中心に、児童の発表した内容を踏まえ、留意点をおさえる。 (指導者用資料参照)	
	<b>「事実」と「感想」・「意見」を見分けよう。</b>				
	○客観的な事実と主観的な内容の違いと、主観的な内容についてどう判断するべきかを考えさせる。	グループ	○サイト②の「意地悪な人が多いのかな？」は、「事実」なのか、個人の「感想」「意見」なのかを考える。  ○主観的な感想や意見をそのまま受け取って良いかを考える。	○たまたま出会った人が意地悪だったことや、「意地悪」であることは、そもそも個人の主観であることをおさえる。  ○誰もが情報を発信できることから、インターネット上の情報がすべて正しいとは限らないことをおさえる。	
○資料を読ませ、正しい情報の見抜き方を理解させる。	個別	○資料を読み、インターネット上の情報の特徴と、それらを適切に判断する際に注意すべき点を理解する。	○個人が発信する情報や、主観的な情報にも正しいものがあることから、必ずしも「主観的な内容＝誤り」と理解してしまわないように留意する。	児童用資料	
<b>差別に繋がる内容に出会った時にはどうすれば良いのだろう？</b>					
まとめ	○インターネット上にある、偏見や差別を助長する情報に対して対処するために、何が必要であるか考えさせる。	グループ  グループ	○本時の活動を振り返り、偏見や差別を助長する情報に対処するために、何が必要かを考え、意見を交流する。  ○各グループで考えたことを発表する。  ○情報を無批判に受け入れるのではなく主体的に読み解くこととともに、人権や人権問題に対する正しい理解が必要であること理解する。	○同和問題やヘイトスピーチなど、人権問題に関わる差別を助長する情報に適切に対処するために、人権学習等を通して正しい認識を持つことが必要であることを踏まえる。 (指導者用資料参照)  ○前提として人を傷つける内容、差別につながる内容を書き込むことは、人権を侵害する許されないことであることを押さえる。	
	○情報を主体的に読み解く力は、インターネット上に限らず必要なことであることを理解させる。	一斉	○学習した内容を、実際の生活の中で生かしていく必要性を理解する。		

## ●評価

客観的な「事実」と主観的な「感想」「意見」を区別し、適切な情報を得る為に必要なことを理解することができたか。インターネット上にある差別に繋がる情報に対し、正しく対処するためにどうすれば良いかについて理解することができたか。

## <参考資料>

- 「情報モラル指導資料集」  
<http://www.kyoto-be.ne.jp/mirainet/moral/>（京都府総合教育センターホームページ）
- 「ICT メディアリテラシーの育成」  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/kyouiku\\_joho-ka/media\\_literacy.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/media_literacy.html)  
（総務省ホームページ）
- 「放送分野におけるメディアリテラシー」  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/top/hoso/kyouzai.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/hoso/kyouzai.html)  
（総務省ホームページ）

## 平成 28 年度人権擁護啓発ポスターコンクール入選作品



京都府町村会長賞  
精華町立精華台小学校 4年  
松本 歩夏さん